

科目名 (科目番号)		理学療法 評価学演習 (時間割参照)	教員名	鈴木康文 永井 智 小林聖美	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
					曜日・時限等	時間割表参照		単位数	1
					授業形態	実験・実習	オフィスアワー	木2 A305研究室	
授業概要		検査・測定・評価についてその目的と意義を学び、具体的な評価プロセス理解のもと、実際に検査・測定を行なう。							
目的・目標		目的:理学療法で用いる基本的な検査・測定法の意義や目的を理解し、検査・測定のスキルを身に付ける。 目標:理学療法の対象となる疾患・症状のほぼすべてに共通して行われる基本的な評価法を理解し、それらの検査・測定技術(主として形態測定、感覚検査、反射検査、関節可動域測定、徒手筋力測定が中心)を習得する。							
準備学習		毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること。							
授 業 計 画	回	授業項目		到達目標・学習内容					
	1	理学療法評価学総論		到達目標：理学療法評価の意義 目的を理解する。臨床的思考過程を理解する。 学習内容：理学療法評価の意義 目的 臨床的思考過程について学ぶ。					
	2	神経学的検査		到達目標：神経学的所見について理解し、測定や観察ができる。 学習内容：一般的評価事項、神経学的検査について学ぶ。					
	3	感覚検査		到達目標：感覚検査の意義と目的を理解し、感覚検査が実施できる。 学習内容：表在感覚、深部感覚、複合感覚の感覚検査を行なう。					
	4	反射検査		到達目標：反射検査の意義と目的を理解し、反射検査が実施できる。 学習内容：深部反射、表在反射、病的反射の反射検査を行なう。					
	5	関節可動域測定・形態測定		到達目標：各測定に必要な指標が触診でき、基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容：周径、肢長、関節可動域の測定を行う。					
	6	徒手筋力検査		到達目標：徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容：手指、脳神経支配筋の徒手筋力検査を行う。					
	7	徒手筋力検査		到達目標：徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容：上肢・下肢の徒手筋力検査を行なう。					
	8	徒手筋力検査		到達目標：徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容：上肢・下肢の徒手筋力検査を行なう。					
	9	徒手筋力検査		到達目標：徒手筋力検査の手順、代償運動を理解し、徒手筋力検査が実施できる。 学習内容：頭頸部・体幹の徒手筋力検査を行なう。					
	10	理学療法評価で用いられる検査手技の確認		形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、知覚検査、反射検査の実施（プレトリアル）					
	11	理学療法評価で用いられる検査手技の確認		形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査、知覚検査、反射検査の実施（プレトリアル）					
	12	理学療法評価で用いられる検査手技の確認		到達目標：それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容：形態計測、関節可動域測定、反射検査の実施方法の確認。					
	13	理学療法評価で用いられる検査手技の確認		到達目標：それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容：形態計測、関節可動域測定、反射検査の実施方法の確認。					
	14	理学療法評価で用いられる検査手技の確認		到達目標：それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容：徒手筋力検査、知覚検査の実施方法の確認。					
	15	理学療法評価で用いられる検査手技の確認		到達目標：それぞれの検査を基本的な技術レベルで実施できる。 学習内容：徒手筋力検査、知覚検査の実施方法の確認。					
成績評価の方法・基準		記述式試験と実技試験の成績（100％）※対面・オンライン共通							
教科書		理学療法学テキスト 理学療法評価学			中山恭秀			マジカルビュー	
参考図書		アスレティックトレーナー専門科目テキスト 第6巻検査・測定と評価						公益財団法人 日本スポーツ協会	
教員からのメッセージ		実習に相応しい服装で参加すること。授業だけでは技術の習得は難しいので、授業時間以外でも練習をしておくこと。 診療所・介護老人保健施設での臨床経験のある理学療法士がこの授業を担当します。 JSPO-AT として登録・認定後5 年を経過している教員ならびに科目内容について教育実績を有する教員がこの授業を担当します。 オンライン授業に伴い授業計画に変更がある場合は、オンラインクラスで変更のシラバスを周知します。							